

# ジャパン・アクティブ・グロース (資産成長型)

追加型投信／国内／株式

## 交付運用報告書

第19期(決算日2024年12月20日)

作成対象期間(2024年6月21日～2024年12月20日)

第19期末(2024年12月20日)	
基準価額	20,719円
純資産総額	2,423百万円
第19期	
騰落率	0.8%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

なお、当ファンドは、運用開始以来永らくご愛顧いただきましたが、2025年12月22日に信託期間満了となります。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 野村アセットマネジメント株式会社

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

●サポートダイヤル

**0120-753104** (受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

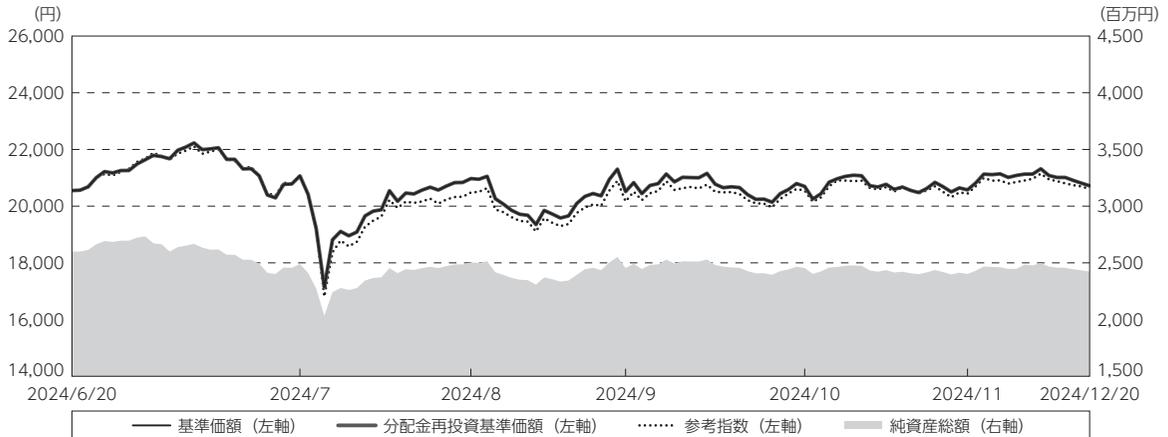
●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2024年6月21日～2024年12月20日）



期首：20,549円

期末：20,719円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：0.8%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首（2024年6月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。参考指数は、作成期首（2024年6月20日）の値が基準価額と同一となるように計算しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

#### \* 基準価額は0.8%の上昇

基準価額は、期首20,549円から期末20,719円に170円の値上がりとなりました。

(上昇) 円安・米ドル高が進行したこと

(上昇) ハイテク関連企業の決算発表への期待が高まったこと

(下落) 2024年7月、日銀が政策金利を引き上げたことにより円高・米ドル安が進行したこと

(上昇) 日銀副総裁の追加利上げに対する慎重な発言があったこと

(上昇) 米大統領選挙でトランプ前大統領の当選が確実となり円安・米ドル高が進行したこと

(下落) トランプ次期大統領の関税政策に対する懸念が高まったこと

(下落) FOMC（米連邦公開市場委員会）にて追加利下げが行なわれたものの、2025年の利下げをより慎重に進める姿勢を鮮明にしたこと

(上昇) 2024年12月、日銀が政策金利を据え置いたことにより当面円安・米ドル高が続くとの見方が強まったこと

1万口当たりの費用明細

（2024年6月21日～2024年12月20日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 167	% 0.800	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	( 80)	(0.386)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	( 80)	(0.386)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	( 6)	(0.028)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	7	0.035	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	( 7)	(0.035)	
(c) その他費用	0	0.002	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	174	0.837	
期中の平均基準価額は、20,846円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

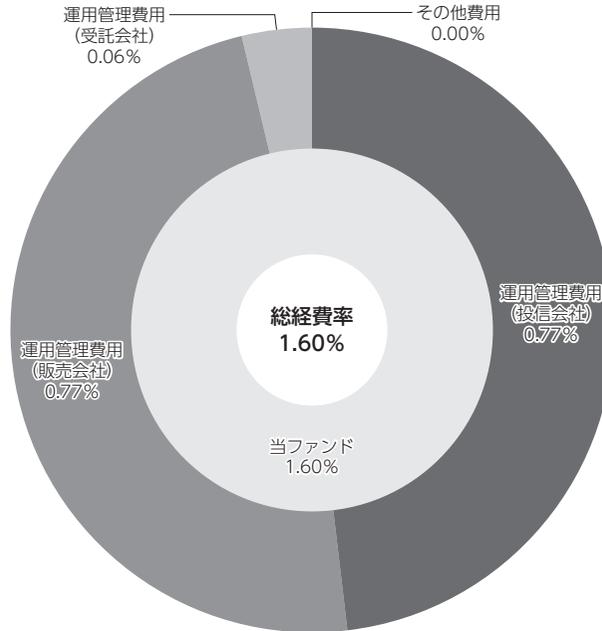
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.60%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 当ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2019年12月20日～2024年12月20日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2019年12月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2019年12月20日 決算日	2020年12月21日 決算日	2021年12月20日 決算日	2022年12月20日 決算日	2023年12月20日 決算日	2024年12月20日 決算日
基準価額 (円)	15,429	18,973	19,215	17,461	19,750	20,719
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	23.0	1.3	△ 9.1	13.1	4.9
参考指数騰落率 (%)	—	5.8	10.8	0.8	26.5	17.7
純資産総額 (百万円)	2,304	1,828	2,565	2,819	2,920	2,423

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。

## 投資環境

（2024年6月21日～2024年12月20日）

国内株式市場は横ばい圏での推移となりました。

期初から2024年7月後半にかけては、円安・米ドル高が進行したことや、ハイテク関連企業の決算発表への期待が高まったことを受けて上昇しました。

2024年7月から8月にかけては、日銀が政策金利を引き上げたことにより円高・米ドル安が進行したことを受けて急落する場面も見られましたが、日銀副総裁の追加利上げに対する慎重な発言を受けて反発しました。以降は米大統領選挙や日米の金融政策を受けて一進一退の動きとなりました。米大統領選挙でトランプ前大統領の当選が確実となり円安・米ドル高が進行したことは相場の上昇要因となった一方で、同氏の関税政策に対する懸念は下落要因となりました。金融政策面において、FOMCにて追加利下げが行なわれたものの、2025年の利下げに対する慎重な姿勢は相場の下落要因となりました。一方で2024年12月、日銀が政策金利を据え置いたことにより当面円安・米ドル高が続くとの見方が強まったことは相場の下支えの要因となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2024年6月21日～2024年12月20日）

### [ジャパン・アクティブ・グロース（資産成長型）]

基本方針として、実質の株式組入比率は高位を維持します。当ファンドは、[ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド] を高位に組み入れ、期末には98.2%としました。

### [ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド]

#### ・株式組入比率

現物株式につきましては、期を通じて高位を維持し、期末は98.3%としました。

#### ・期中の主な動き

期末の銘柄数は69銘柄としました。

### <投資割合を引き上げた主な業種（東証33業種分類による時価構成比、以下同じ）と銘柄>

#### ①その他製品（期首1.1%→期末2.9%）

海外事業の不振から数年前業績が低迷したものの、グローバルでのマネジメントを強化し業績改善が進みROE（株主資本利益率）も大幅に改善しているアシックスなどを買付けしました。

#### ②銀行業（期首2.1%→期末3.6%）

楽天経済圏での口座数や預金残高増加により中長期の成長性が高く、高いROEが維持できると判断した楽天銀行などを買付けしました。

#### ③精密機器（期首2.8%→期末4.1%）

高いROEが継続するという見通しに変化はないものの株価が軟調であったHOYAなどを買付けしました。

<投資割合を引き下げた主な業種と銘柄>

- ①化学（期首12.3%→期末9.8%）  
成長性の低下によりROEの改善が難しいことを鑑みて、ユニ・チャームなどを売却しました。
- ②輸送用機器（期首7.2%→期末5.3%）  
認証不正問題に伴い生産回復が出来ず、ROEの改善が難しいことを鑑みて、トヨタ自動車売却しました。
- ③電気機器（期首23.1%→期末21.3%）  
車載向け半導体で競合激化によるシェア低下が進んでおり成長鈍化が想定されると判断したルネサスエレクトロニクスなどを売却しました。

・期末の状況

<参考指数と比べ多めに投資している主な業種>

- ・成長分野を持ち、競争力に優れ、高いROEが維持できると判断した銘柄が多い情報・通信業、化学、電気機器、精密機器、鉱業。

<参考指数と比べ少なめに投資している主な業種>

- ・中期的な成長力や競争力が低く、高いROEが維持できると判断した銘柄が少ない銀行業、陸運業、輸送用機器、不動産業、食料品。

<期末におけるオーバーウェイト上位5業種>

	業種	時価構成比(%)	TOPIX (%)	差(%)
1	情報・通信業	12.5	7.7	4.8
2	化学	9.8	5.2	4.6
3	電気機器	21.3	17.7	3.6
4	精密機器	4.1	2.4	1.7
5	鉱業	1.5	0.2	1.3

<期末におけるアンダーウェイト上位5業種>

	業種	時価構成比(%)	TOPIX (%)	差(%)
1	銀行業	3.6	8.6	-5.0
2	陸運業	0.0	2.3	-2.3
3	輸送用機器	5.3	7.3	-2.0
4	不動産業	0.0	1.8	-1.8
5	食料品	1.5	3.2	-1.7

\* TOPIXはTOPIXにおける時価構成比です。浮動株比率調整後を使用しています。

\* 参考指数（TOPIX（東証株価指数）(配当込み)）の時価構成比に比べ、オーバーウェイトは多め、アンダーウェイトは少なめとしています。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2024年6月21日～2024年12月20日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としている東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の騰落率が+0.3%となったのに対して、基準価額は+0.8%となりました。

### 【主な差異要因】

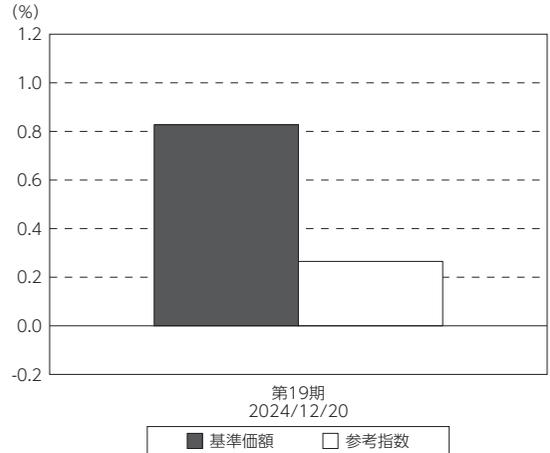
#### （プラス要因）

- ①参考指数に比べてパフォーマンスが良かった情報・通信業、サービス業などへの投資割合を多めにしていたこと
- ②参考指数に比べてパフォーマンスが悪かった電気・ガス業、卸売業、鉄鋼などへの投資割合を少なめにしていたこと
- ③参考指数に比べて多めに投資していたファーストリテイリング、リクルートホールディングス、中外製薬、日立製作所、東宝などが値上がりしたこと

#### （マイナス要因）

- ①参考指数に比べてパフォーマンスが良かった銀行業、非鉄金属などへの投資割合を少なめにしていたこと
- ②参考指数に比べてパフォーマンスが悪かった化学、鉱業、電気機器などへの投資割合を多めにしていたこと
- ③参考指数に比べて多めに投資していたルネサスエレクトロニクス、東京エレクトロン、信越化学工業、村田製作所、ユニ・チャームなどが値下がりしたこと

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

（注）参考指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）です。

## 分配金

（2024年6月21日～2024年12月20日）

- （1）今期の収益分配金については、基準価額の更なる成長のため、今期は分配せず再投資いたします。
- （2）留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

### ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項目	第19期	
	2024年6月21日～2024年12月20日	
当期分配金	-	
（対基準価額比率）	-%	
当期の収益	-	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	10,750	

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### [ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド]

短期的な株価変動は相場環境に左右されますが、中長期的な株価形成は株主資本の積み上がりに応じてなされると考えます。したがって当ファンドでは、個別企業の調査・分析等を中心とした「ボトムアップアプローチ」により、企業の「強さ」と「伸び」をベースに、中長期にわたり高いROEを継続し株主資本を着実に積み上げると予想される企業を中心とした投資を行なっていく考えです。

IT（情報技術）、自動化、省エネルギー、ヘルスケアなどの市場は着実に拡大していくと考えております。そうした成長分野で高い競争力と強固な収益構造を持ち、成長を継続することが可能な企業の見極めに重点を置いた企業分析・銘柄選別を行なっていきます。

### [ジャパン・アクティブ・グロース（資産成長型）]

当ファンドは引き続き第20期の運用に入ります。

今後の運用に関しましては、前記の投資環境認識とマザーファンドの投資方針のもとで、ファンドの資金動向に十分配慮しながら、主要投資対象である [ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド] の組み入れを高位に維持し、基準価額の向上に努めてまいります。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

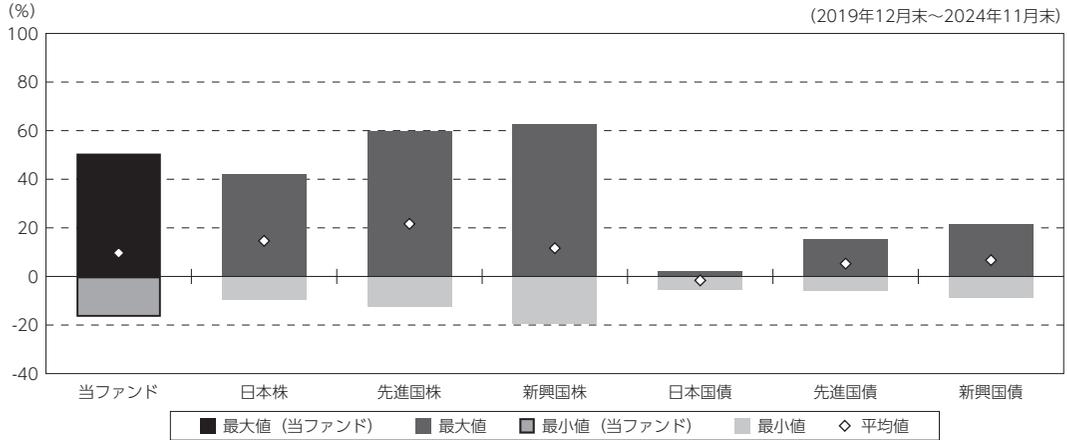
投資信託約款に規定している委託者が行なう公告を掲載する当社ホームページのアドレスを「<http://www.nomura-am.co.jp/>」から「<https://www.nomura-am.co.jp/>」に変更する所要の約款変更を行ないました。  
 <変更適用日：2024年7月4日>

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2015年9月25日から2025年12月22日までです。	
運用方針	ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。 わが国の株式の中から、個別企業の調査・分析等に基づいたボトムアップアプローチにより、企業の経営戦略や財務戦略などを通じて長期的な株主資本成長や利益成長が期待できる銘柄を選定します。	
主要投資対象	ジャパン・アクティブ・グロース（資産成長型）	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	50.6	42.1	59.8	62.7	2.3	15.3	21.5
最小値	△ 16.6	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	9.7	14.6	21.6	11.6	△ 1.6	5.3	6.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年12月から2024年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

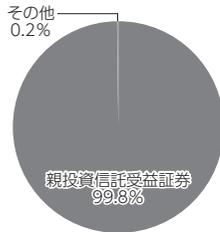
### 組入資産の内容

（2024年12月20日現在）

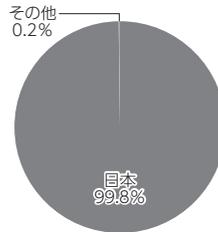
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第19期末
ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

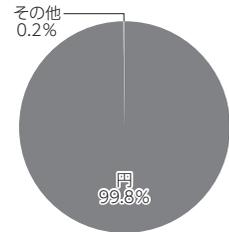
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



（注）比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

（注）国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

項目	第19期末
	2024年12月20日
純資産総額	2,423,204,770円
受益権総口数	1,169,574,954口
1万口当たり基準価額	20,719円

（注）期中における追加設定元本額は80,824,631円、同解約元本額は176,299,287円です。

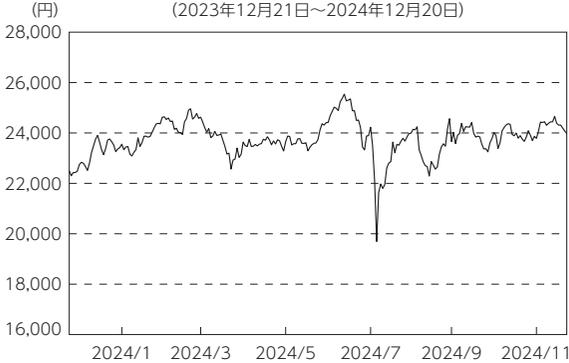
組入上位ファンドの概要

ジャパン・アクティブ・グロース マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2023年12月21日～2024年12月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2023年12月21日～2024年12月20日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式)	20 (20)	0.085 (0.085)
合計	20	0.085
期中の平均基準価額は、23,895円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

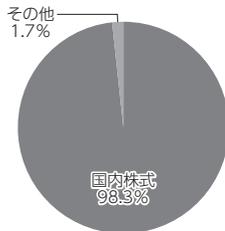
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

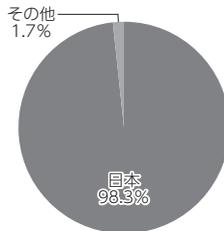
(2024年12月20日現在)

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 日立製作所	電気機器	円	日本	4.8
2 リクルートホールディングス	サービス業	円	日本	4.0
3 ソニーグループ	電気機器	円	日本	3.7
4 東京海上ホールディングス	保険業	円	日本	3.4
5 キーエンス	電気機器	円	日本	3.2
6 信越化学工業	化学	円	日本	3.1
7 伊藤忠商事	卸売業	円	日本	3.0
8 ファーストリテイリング	小売業	円	日本	2.9
9 HOYA	精密機器	円	日本	2.4
10 ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	2.4
組入銘柄数	69銘柄			

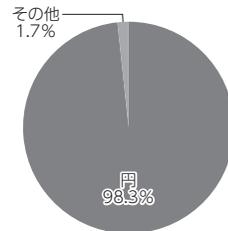
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
 (注) 国(地域) および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

配当込みTOPIX（「東証株価指数（TOPIX）（配当込み）」といいます。）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P Xにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

### ○MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPMやその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。米国のJ.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMSLLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLCはNASD, NYSE, SIPCの会員です。JPMorganはJP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）